昨年度を振り返って

理事長　長谷川　憲　治

昨年度を振り返りますと、総じて充実した一年であったと言って良いと思います。

コロナ禍の状態を抜け切れない中でも３年連続無休で電話相談を受ける事が出来ましたし、受信件数も過去最大だった昨年を206件上回る8,109件になり、悩んでおられる方により一層お手伝いが出来たのではないかと思います。相談員の皆さん・事務局の皆さんの高い志とご努力の賜物であり、深く感謝申し上げます。又、最大の課題であります相談員数も念願の三桁（100名）体制は割り込んだものの、ほぼ近い水準で推移しており、その事が受信相談件数の増加に繋がっていると思われます。又、一昨年度は赤字決算でしたが、昨年度は黒字決算となり今後共継続したいと考えております。

そして昨年は開局30周年という節目の年でもありました。10月26日に「開局30周年記念の講演会と集い」を開催致しましたが、「後援会」・「集い」共に良かったと言う評価を頂き安堵しております。又、相談員の方々にアンケートを記入・提出して頂きましたが、非常に有意義な内容が多く、今後の運営や活動に是非活かしていきたいと考えております。

又、課題となっている事務局の問題ですが、進展は見られないものの、副市長を訪問して要請申し上げた結果、今後共電話相談受信を続けられる事は確認出来、一安心の状態です。

一方、残念ながら後援会員数は2021年には個人800口、法人2,630口だったのに対し、昨年度は個人606口、法人2,480口と減少しており、その対策が喫緊の課題となっております。今年度の大きな課題と捉え対応して参ります。

山形県も人口が遂に100万人を割り込み、人口減少対策が大きな課題となっておりますが、その意味でも「いのちの電話」の意義は益々高まると思います。山形いのちの電話は、これからも「悩んでおられる人々に少しでも寄り添い、お役に立てれば」との想いで活動を続けて参りますので、変わらぬご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

いのちの電話の目的

いのちの電話は、孤独の中にあって、時には精神的危機に直面し、自殺をはじめ、助けと励ましを求めている一人一人と、主に「電話」という手段で対話することを目的とする。